

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

I. 概要

主力のプリズム式双眼鏡の日本からの輸出(出所:財務省輸出入統計)は、数量で約10万個、金額で28億円(昨年29億円、平均単価は3万円)、対前年比数量で37%減、金額では5%減であったが、高単価品に支えられ売上減は少なく抑えられた。仕向け地別輸出金額上位5ヶ国の高額順、及び平均単価・シェア(カッコ内)は、①米国11億円(3万円、39%)、②オランダ4.4億円(5万円、16%)、③ドイツ3.4億円(2.3万円、15%)、④カナダ2.1億円(5万円、8%)、⑤サウジアラビア1.2億(5.1万円、4%)、ちなみに売上1位の米国は前年同期比金額ベースで1億円の減少だった。

同じくプリズム式双眼鏡の自主統計(出所:生産販売統計、産地直送含む)では、国内販売が前年比数量、金額とも2%減であった。一方、輸出では数量で16%減、金額で5%減と伸び悩んだ。金額ベースでの国内対輸出比率は18%対82%(前年17%:83%)で昨年とほぼ同水準であった。なお、国内を含む売上比率は、①北米44%、②欧州30%、③国内17%、④その他9%と昨年同比率であった。

本年度出展したイベントは、①原村星まつり、②胎内星まつり、③練馬まつり、④ジャパンバードフェスティバル。★星まつりではOEMメーカー2社の専門スタッフのご協力を得て、双眼鏡清掃サービスを実施した。工業会ブースでは、最新商品の展示、使い方・楽しみ方、構造理解(カットモデル)、カタログ配布、アウトレット販売等をおこない幅広いお客様との交流をおこなった。

野鳥系では日本で唯一のジャパンバードフェスティバルには、主催団体の一つとして実行委員会に参画すると共に、我孫子市水の館3階(手賀沼課)にて、手賀沼が一望できる場所で、望遠鏡・双眼鏡・単眼鏡の展示と観望、カットモデルでの構造理解、カタログ・冊子の配布、プリズムを使った太陽光の虹出し実演などをおこないお客様に喜ばれた。

CP+2018では出展メーカー9社を巡ってのスタンプラリーを初めて実施した。752名のご応募があり、厳選なる抽選のうえ各社協賛品の双眼鏡、天体望遠鏡、三脚、ハーネス等、計23点について各社様より発送した。

平成29年度(2017年/2018年)の当工業会各事業の具体的内容について、以下の通り報告する。

II. 事業報告

1. 会議

1.1 第41回通常総会:平成29年5月26日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催し議案は全て承認された。

【議案】

第1号議案 平成28年度事業報告書及び収支決算書承認の件

第2号議案 平成29年度事業計画書承認の件

第3号議案 平成29年度会費の額及びその納入方法承認の件

第4号議案 平成29年度収支予算書承認の件

1.2 総会懇親会は平成29年5月26日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催、出席者は50名。

賀詞交歓会は平成30年1月19日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催、出席者は67名。

1.3 理事会:新公益法人改革の法律及び定款にもとづき、継続事業報告を実施し進捗を確認。

①5月12日(金):第41回通常総会議案審議、総会運営要領の件、他。

②5月25日(金):第41回通常総会上程議案審議の件。

③9月1日(金):継続事業1~6の実施進捗状況報告の件、イベント出展報告(7月~8月)、他

④12月1日(金):継続事業1~6の実施進捗状況報告の件、イベント出展報告(10月~11月)、他。

⑤平成30年1月19日(金):継続事業1~6の実施状況報告の件、新年度理事会日程、他。

⑥平成30年3月16日(金):第42回総会議案審議の件、継続事業1~6の実施状況報告、他。

1.4 総務広報委員会:平成30年1月26日(月) 平成30年度事業計画&収支予算書の検討

1.5 技術委員会:平成30年2月22日(木) 平成30年度技術委員会予算及び技術研修会テーマ検討

1.6 業界活性化委員会:平成29年12月20日(水) CP+2018においてスタンプラリーの実施を検討。

モノマガジン8月号に歴史展示室の貴重な双眼鏡が取り上げられた。

2. 会員入退会情報

2.1 平成30年3月31日付現在の会員数:正会員数30社(変わらず)、賛助会員数8社(変わらず)

3. 「双眼鏡・望遠鏡歴史展示室」

- 3.1 7月、カールツァイス様よりライフルスコープ(カットモデル)の寄贈品を賜りました。
- 3.2 7月、日の出光学様より、最新単眼鏡1.8×42T 24°(ピント調整付き)の寄贈品を賜りました。
- 3.3 7月、胎内星まつりにて、ベルボン様より三脚(カルマーニューE5300)を展示用として購入いたしました。

4. 継続事業報告

4.1 国際標準化規格関連事業 (ISO/TC172/SC4分科会)

4.1.1 SC4 望遠鏡(Telescopic Systems)の構成メンバー

議長: Dr. Vladimir. E. Yashin (ロシア) (注1)、事務局: GOST, Dr. R. Andreyev (ロシア) (注1)

作業グループ: WG2(ライフルスコープ)が活動中。

Pメンバー(9ヶ国): オーストリア、中国、ドイツ、日本、ルーマニア、ロシア、イギリス、アメリカ、韓国

Oメンバー(6ヶ国): フランス、ポーランド、サウジアラビア、スロバキア、スイス、スペイン

注1: 平成29(2017)年10月のTC172総会の決議により、暫定的に議長を、Franz Erler氏(オーストリア)とし、事務局はDIN(ドイツ)が代行する。

4.1.2 [SC4国内委員会活動経過]: 平成29(2017)年度は、SC4の国際会議は開催されず、国内会議の開催3回、ISO投票2件(NWIP1件、CIB1件)の活動となった。なお、TC172総会が10月に東京で開催され、SC4関連案件の議論に参加した。

4.1.3 10月23,25日 [国際委(TC172総会)]

・今回のTC172総会ではSC4会議は併催されなかったが、最近のSC4国際事務局の活動停滞に関して、以下のような総会決議がされた。-[決議171]ロシアにおける機構再編により、SC4国際事務局機能が停滞していることが確認されたため、暫定的に1,2年の間、事務局をDIN(ドイツ)に置く。ロシアにおける事務局機能が再編された後、十分な訓練を実施した上で事務局を復活する。-[決議172]前決議に付随し、スワロフスキのエルラー氏(オーストリア)を2019年末までの2年間、SC4の議長とする。

4.1.4 11月14日 [国内委]

- ・以下のISO投票について対応を検討した。
- CIB/WD9336-3 OTFの応用第3部望遠鏡(2017/11/23 〆切)
- NP14490-9 望遠鏡試験方法第9部 像面湾曲(2017/11/28 〆切)
- ・JIS見直しについて、JIS B 7157:2003望遠鏡用語の改正を各委員からの意見集約と議論を行った。
- ・先に行われたISOTC172国際会議Plenary Meetingでの、SC4活性化への暫定措置について報告した。

4.1.5 平成30(2018)年

1月19日 [国内委]

- ・以下のISO投票結果について報告し、各国コメントについて検討した。
- CIB/WD9336-3 OTFの応用第3部望遠鏡(2017/11/23 〆切、賛成8、反対0、棄権1)
- NP14490-9 望遠鏡試験方法第9部 像面湾曲(2017/11/28 〆切、賛成5、反対0、保留3、棄権1)

4.1.6 [SC4 活動内容と総括]

TC172/SC4は、「光学及びフォトニクス関連の分野のうち、望遠鏡の用語、性能特性、試験方法における規格」を制定する技術委員会であり、1992年10月にサンクトペテルブルグで開かれた第1回国際会議でSC4の活動が始まり、これまでに20件の規格審議・制定されてきた。またSC1から1件の規格が移管されている。

なお、Pメンバー9ヶ国のうち、最近国際会議に参加しているのは、ドイツ、オーストリア、アメリカ、日本の5ヶ国である。しかしながら、事務局はロシアが担当しているものの、最近、組織再編等のため活動が停滞しており、関係者間で懸念されていた。そのため、TC172本部との間で協議され、当面の間、事務局はDIN(ドイツ)、議長はオーストリアが代行することが、2017年10月のTC172総会(東京)で提案され承認された。

SC4が担当している規格は、平成14(2002)年に最初の規格を発行しこれまでに20件を制定し、移管分1件を含めて21件である。

現在、9336-3 OTFの応用について、改定案が検討されているほか、アイレリーフの詳細な定義、望遠鏡等の操作部の操作方法、像面湾曲の測定方法、軸上の色収差測定方法等について、提案・審議が進められている。

そのほか、発行済みの規格については、見直し修正または改訂が進められており、SC4国内委員会は、投票やコメントはもとより、これらの作業や審議に積極的に関わり、検討・討議を行なっている。

4.1.7 [これまでに日本で原案を作成した規格]

- ISO14132-4 望遠鏡用語(第4部:天体望遠鏡)
- ISO14134 天体望遠鏡特性(一般品と高性能品の2規格を統一)
- ISO14490-4 望遠鏡試験方法(第4部:天体望遠鏡)

4.1.8 [規格の審議状況:2017年のみ記載]

ISO 14135-1:2017 ライフルスコープ特性(一般品)(第3版)2017/07/31
ISO 14135-2:2017 ライフルスコープ特性(高性能品)(第3版)2017/07/31
ISO 14490-5:2017 望遠鏡試験方法(第5部:透過率)2017/07/26

4.1.9 [NWI、WD]

Revision of ISO9336-3:1994 OTFの応用(第3部:望遠鏡)
Proposed annex for 14132-1 Practical eye relief
NP 14490-9 望遠鏡試験方法 第9部 像面湾曲
PWI 操作部
NWIP 14490-X 軸上色収差

4.1.10 [JIS原案作成委員会]

ISO14490-7(望遠鏡試験方法(第7部:分解能限界))を基にしたJISについて、日本規格協会の公募制度(H28年度A)に採択され、3回の委員会(内1回は書面)での審議を経て、原案を平成28(2016)年度に作成した。平成29(2017)年度は上部委員会である、機械要素技術専門委員会を経て、3月20日にJIS B 7263-7として制定発行となった。また、望遠鏡用語の改定について同公募制度(H30年度A)に採択され、平成30(2018)年度に原案作成委員会が6月8日から開始することになった。

・会議日程等

平成29(2017)年12月21日 日本工業標準調査会機械要素技術専門委員会 JIS原案の説明と質疑

4.2 ホームページ関連事業

平成28年度事業報告・収支報告、及び平成29年度事業計画・収支予算書(6月)、会員名簿・役員変更、財務省統計(3ヶ月毎更新)、イベントカレンダーの更新(1回)、バナーリンクの設置(中小企業優遇税制、北八ヶ岳、JBF、CP+スタンプラリー)、検査工具機器在庫情報の更新(2回)。

4.3 イベント関連事業

4.3.1 野鳥関係

① ジャパンバードフェスティバル(JBF2017)

会期:平成29年11月4日(土)~5日、会場:千葉県我孫子市手賀沼親水広場、(公財)山科鳥類研究所、他
主催:ジャパンバードフェスティバル実行委員会(事務局は我孫子市)、出展:工業会関連社
会議日:平成29年4月20日総会、6月28日、8月17日、10月6日、11月21日、平成30年2月23日

4.3.2 天体関係

① 原村星まつり

会期:平成29年8月4日(金)~6日(日)、会場:長野県諏訪郡原村、八ヶ岳自然文化園内
主催:原村星まつり実行委員会、出展:工業会関連7社、(一社)日本望遠鏡工業会

② 胎内星まつり(自主参加)

会期:平成29年7月28日(金)~30日(日)、会場:新潟県胎内市胎内平
主催:胎内星まつり実行委員会、出展:工業会関連9社、(一社)日本望遠鏡工業会

4.3.3 その他イベント

① 練馬まつり

会期:平成29年10月15日(日)、会場:東京都練馬区としまえん
主催:東京都練馬区、出展:(一社)日本望遠鏡工業会

4.4 調査広報事業

4.4.1 公式発表されている財務省関税局輸出入通関統計(双眼鏡、単眼鏡、ライフルスコープ等)をホームページに掲載すると共に会員向けには会報内に掲載。なお、会員企業による自主統計は継続中。

4.4.2 国内外の市場・流通動向:諸統計にて掲載。

4.4.3 各種イベント案内:ホームページに掲載すると共に会員向けには会報(電子メール)にてお知らせした。

4.4.4 事業成果の普及:通常総会にて承認後、ホームページに掲載した。

4.5 関連団体提携事業

4.5.1 軽機械センター運営協議会への参画事業:中国・欧州情報収集

- ・6月9日(木)、幹事会(会計報告・事業計画)に出席した。
平成30年2月16日(金)、幹事会に出席した。平成30年予算書を審議し承認された。
石井北京事務所所長の中国事情の報告会、経産省片岡課長からの最新報告があった。
- ・会員構成:(一社)ビジネス機械・情報システム産業協会、日本機械輸出組合、JETRO、(一社)日本時計協会、(一社)カメラ映像機器工業会、(一社)日本縫製機械工業会、(一社)日本望遠鏡工業会

4.5.2 日本光学工業協会への事業運営参加:国際標準化規格、JIS関連、技能検定等々、TC172活動報告の発行

- ・6月8日(木)役員会(事業報告&会計報告、事業計画&収支予算書)に出席
- ・会員構成:日本顕微鏡工業会、日本光学測定機器工業会、日本医用光学機器工業会、(一社)カメラ映像機器工業会、(一社)日本測量機器工業会、(一社)日本写真映像用品工業会、(一社)日本望遠鏡工業会

4.5.3 (一社)日本写真映像用品工業会との業務提携:CP+協力、各種イベントにて用品年鑑を配布。

6月7日(水)セミナー&会員交流会に参加、6月21日(水)フォトネキスト見学・情報交流、12月14日(木)定時社員総会オブザーバー出席・会員交流忘年会に参加

4.5.4 (一社)天体望遠鏡博物館(四国さぬき市、結願の里)との業務提携:人事交流をおこなっている。

4.5.5 日本天文協議会(2010年9月9日発足)への参画:

- ・平成28年2月18日付入会承認。
- ・29年度は星空関係イベントの後援名義について2件の承認事項があった。
- ・1月29日の運営協議会に初参加した。

日本天文協議会(抜粋):世界天文年2009の成果を引き継ぎ、日本の天文研究、普及・アマチュアが一体となって、天文と科学の理解を日本の社会に広げるための合同組織(会長:海部 宣男)。

会員構成:(公社)日本天文学会、自然科学研究機構 国立天文台、宇宙航空研究開発機構、天文教育普及研究会、日本プラネタリウム協議会、日本公開天文台協会、日本天文愛好者連絡会、星空を守る会、(一社)日本望遠鏡工業会

4.6 経営環境関連事業

4.6.1 中小企業経営強化税制の説明会に参加、ホームページでもバナーリンクを設置した。

4.6.2 研修会開催事業(技術委員会主催)

- ① 6月29日(水)、東海光学獅野様・小崎様による「第一部:眼鏡について」「第二部:光学薄膜について」を実施した。参加者は21名。
- ② 9月29日(金)、ニコン・児玉様(元光ガラス社長)による「光学ガラス」を実施した。参加者は32名。

4.6.3 部会活動事業 1.5 業界活性化委員会にて記述。

5. 検査・測定機器

5.1 検査依頼:合計36件(28社)

依頼検査・性能検査(3件)、検定・校正(視度望遠鏡・ダイナメータ・光軸検査器:26件)、分光透過率(7件)

5.2 検査器具販売:合計131件(52社)

視度望遠鏡(77本)、携帯型光軸平行器(6個)、ランプ(48個)

6. 行政府機関等への調査協力

6.1 経済産業省産業機械課:セーフティーネット保証5号、分類番号2751:顕微鏡・望遠鏡

データ内容は主力のプリズム式双眼鏡に関して、自主統計(協力企業)をもとにした生産・販売動向。調査期間は平成27年~29年、1月~3月(4月下旬回答)、4月~6月、7月~9月、10月~12月、年4回
なお、データの回答は顕微鏡工業会と協議のうえ望遠鏡工業会にて回答を継続中。

6.2 東京都産業労働局商工部経営支援課:東京都概要調及び業種別動向調査、11月17日回答済み

動向調査期間:平成28年10月~平成29年9月、概要調:平成29年10月末

- ・団体情報連絡会への出席:平成29年7月21日
- ・中小企業支援事業説明会への出席:平成29年3月28日